



フォーサイド グループ

2019年12月期第3四半期 決算説明資料

2019年12月期第3四半期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	前年比	主な増減要因・傾向
営業収益	2,858	3,017	105.6%	「プライズ事業」、「不動産関連事業」がグループ全体を牽引し、営業収益は前年比105.6%と堅調に推移。
営業総利益	1,119	1,346	120.3%	営業利益においては、「投資銀行事業」における案件の成約件数が増加したことにより利益を押し上げたが、グループ全体での営業活動拡大に伴う人件費や支払手数料等が増加したこと等により、利益の確保には至らず。
販売管理費	1,285	1,367	106.4%	経常利益においては、保険解約返戻金等の営業外収益の増加により、利益を確保。
営業利益	△166	△20	—	また、一過性の費用として繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額245,825千円を第1四半期連結期間より計上したことで、親会社株主に帰属する当期純利益の確保には至らず。
経常利益	△150	1	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	△464	△130	—	

営業収益は堅調に推移するも、営業利益の確保に至らず
営業外収益の増加で経常損益は黒字を確保

連結業績ハイライト（四半期毎）

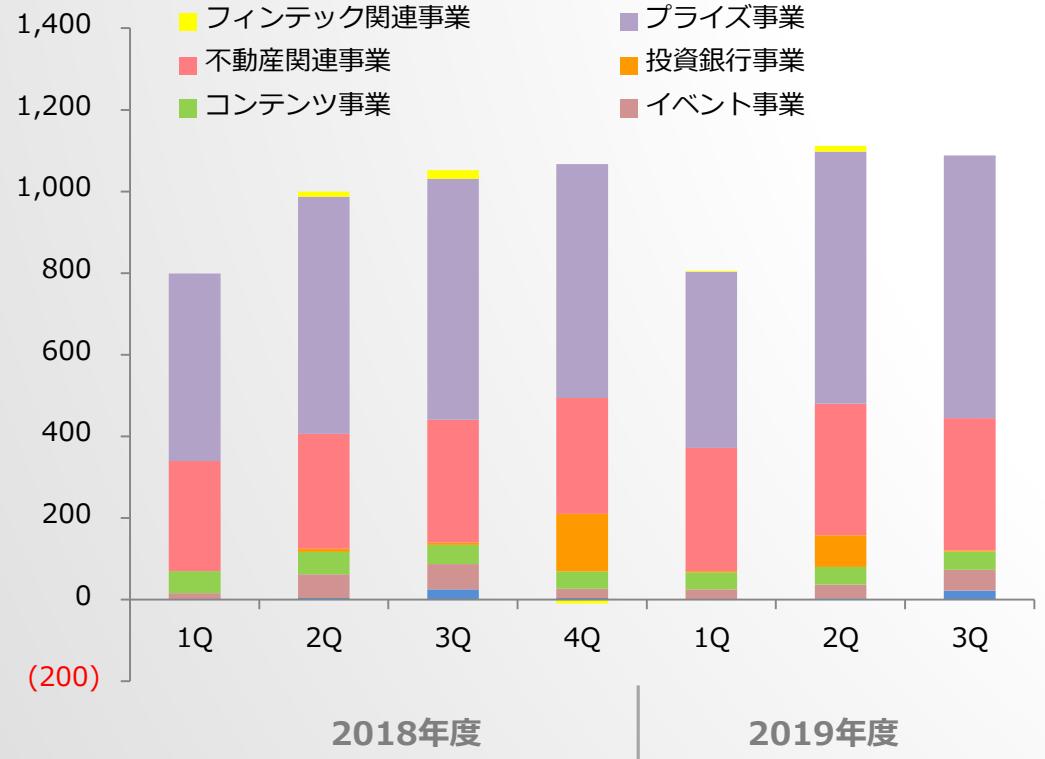
(単位：百万円)

	2018年度 第1四半期	2018年度 第2四半期	2018年度 第3四半期	2018年度 第4四半期	2019年度 第1四半期	2019年度 第2四半期	2019年度 第3四半期
営業収益	800	1,003	1,053	1,062	808	1,116	1,092
営業総利益	344	404	370	438	357	517	471
販売管理費	406	432	446	482	425	447	494
営業利益	△62	△27	△76	△44	△67	70	△23
経常利益	△54	△19	△77	△50	△58	82	△22
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△73	△44	△346	△127	△169	58	△18

2019年第3四半期はYoYで増収増益も、
販管費の増加等によりQoQでは減収減益

営業収益の推移

(単位：百万円)



プライズ事業・不動産関連事業が
グループ全体を牽引するも、QoQでは微減

セグメント別の主な増減要因

プライズ事業

※(株)ブレイクにおけるプライズ事業では、受注件数の伸長により売上高は堅調に推移。また、利益率の高い商品の販売構成比が増加したこと等により、大幅な増益を達成。

不動産関連事業

※日本賃貸住宅保証機構(株)における家賃保証事業では、新規獲得件数及び保証債務残高は好調に推移。一方で、新規獲得件数増加に伴う貸倒引当金繰入及び貸倒損失の計上にくわえ、のれんの償却等が影響し、セグメント利益の確保には至らず。

投資銀行事業

※フォーサイドフィナンシャルサービス(株)における投資銀行事業では、第2四半期までにM&A等のアドバイザリー業務等の案件の成約件数が集中したことによる反動減の影響を受けたものの、增收・増益を達成。

コンテンツ事業

※(株)モビぶっくで展開中の電子書籍の売上は堅調に推移し、費用対効果を重視したプロモーション施策により広告宣伝費が減少。一方で、アプリ配信業務では分配金の見直しに伴い収益基盤の再構築を図るも、大幅に売上は減少。コンテンツ事業全体では、減収減益ながらも、セグメント利益を確保。

マスターライツ事業

※(株)FM及び(株)マーベラスアークにおける音楽関連事業は、新設した(株)マーベラスアークに所属するタレントを中心に、ライブ活動・音楽配信・関連グッズ販売を積極的に行い、売上高は大幅に増加し、業績改善を推し進めているものの、セグメント利益の確保までには至らず。

FinTech関連事業

※フォーサイドフィナンシャルサービス(株)におけるFinTech関連事業では、マイニングの再稼働を予定していたものの、ハッシュレートの大幅な上昇や仮想通貨の価格が下落傾向にあったこと等から再稼働の中止を決定。

イベント事業

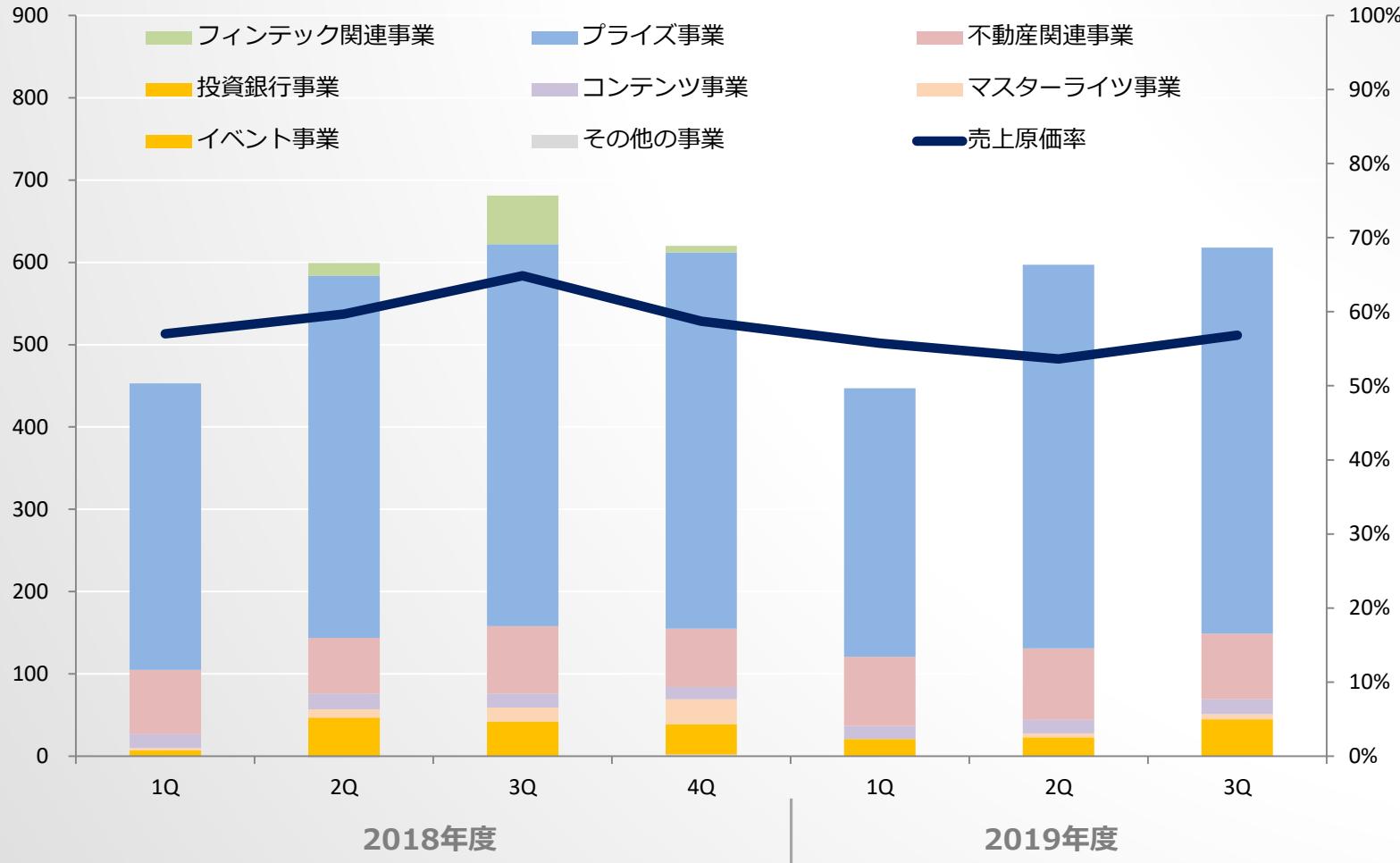
※(株)ブレイクにおけるイベント事業では、多くの催事・イベントにおいて商品を展開・販売することで収益を確保するも、来場者一人当たりの購入金額が当初想定を上回ることができず、セグメント利益の確保に至らず。

その他の事業

※フォーサイドフィナンシャルサービス(株)における金融事業では、貸付金の回収に注力し、販売管理費用の抑制に努めたことで、セグメント利益の確保。

原価の推移

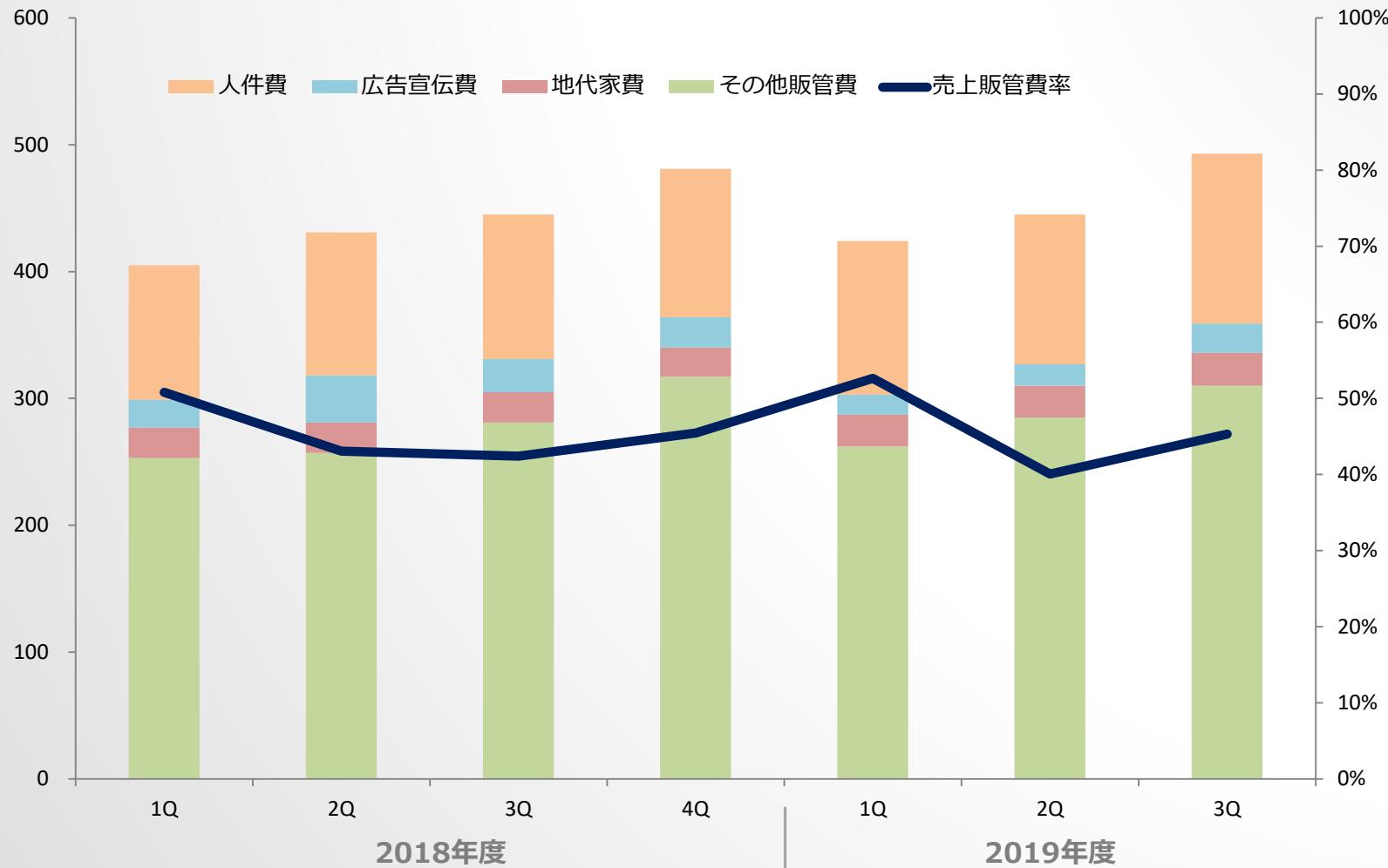
(単位: 百万円)



原価は売上の増加に伴いQoQで微増するもYoYでは大幅に減少
今後も各事業においてコストコントロールを徹底し、継続的なコスト削減を実施

販売管理費の推移

(単位:百万円)



グループ全体での営業拡大に伴い人件費は増加
売上販管費率がQoQで大幅に上昇しており、早期改善に努める

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年度 12月期	2019年度 第3四半期	増減金額	主な増減要因・傾向
資 産	3,992	3,213	△779	資産については貸付金の減少547百万円、繰延税金資産の取り崩しによる減少245百万円等により、前年度末に比べ779百万円の減少となった。
負 債	2,094	2,161	66	負債については未払金の増加85百万円等により、前年度末に比べ66百万円の増加となった。
純資産	1,898	1,051	△846	純資産については子会社株式の追加取得による資本剰余金の減少553百万円、親会社株主に帰属する当期純損失130百万円等を計上したことにより、前年度末に比べ846百万円の減少となった。

(注) 2019年11月11日現在、発行済株式総数は31,397,704株、資本金は1,264百万円、資本準備金は1,161百万円です。

日本賃貸住宅保証機構(株)の株式追加取得及び
当期純損失の計上により純資産が減少



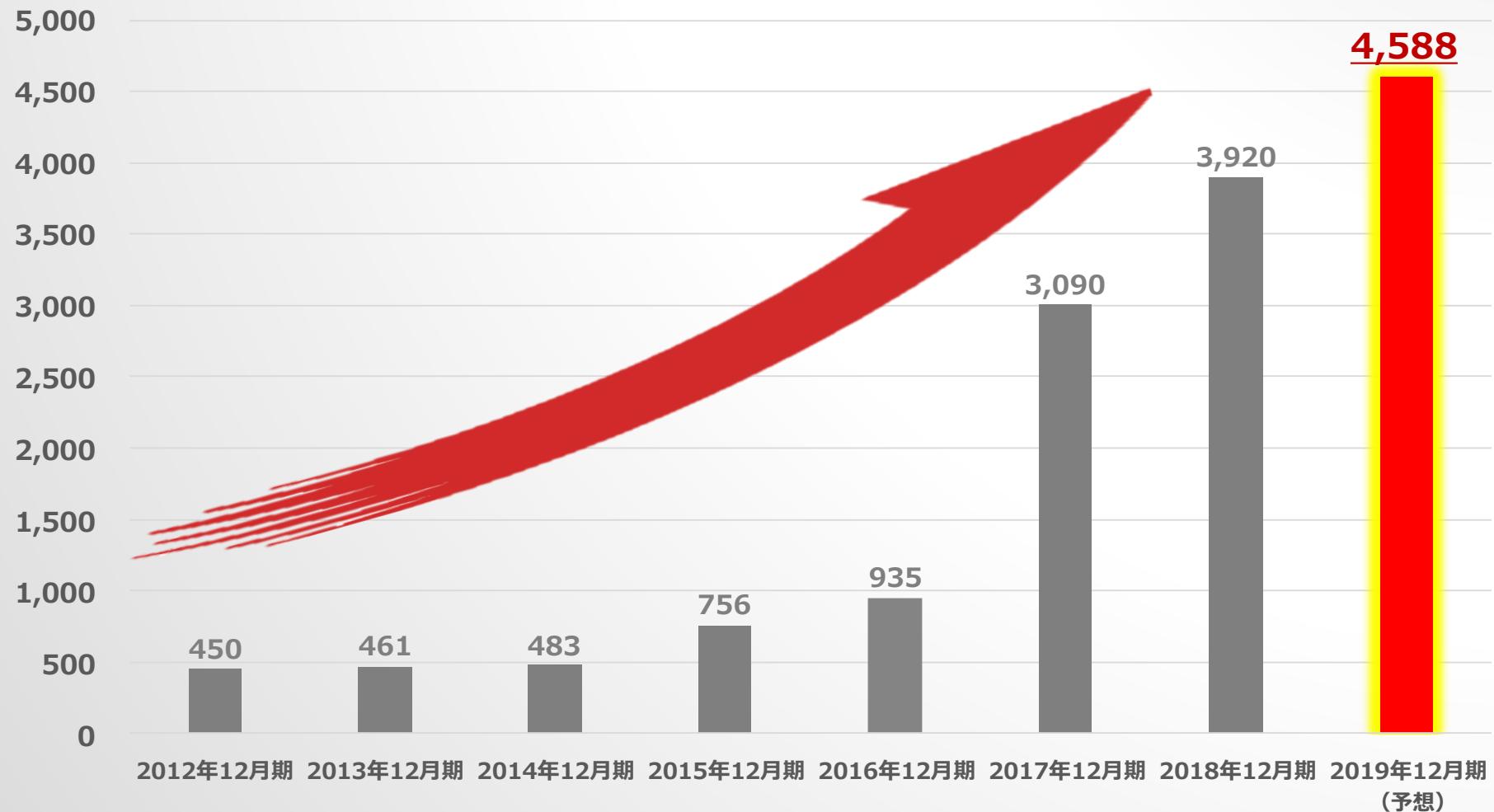
2019年12月期の業績見通し

連結営業収益 (通期予想)

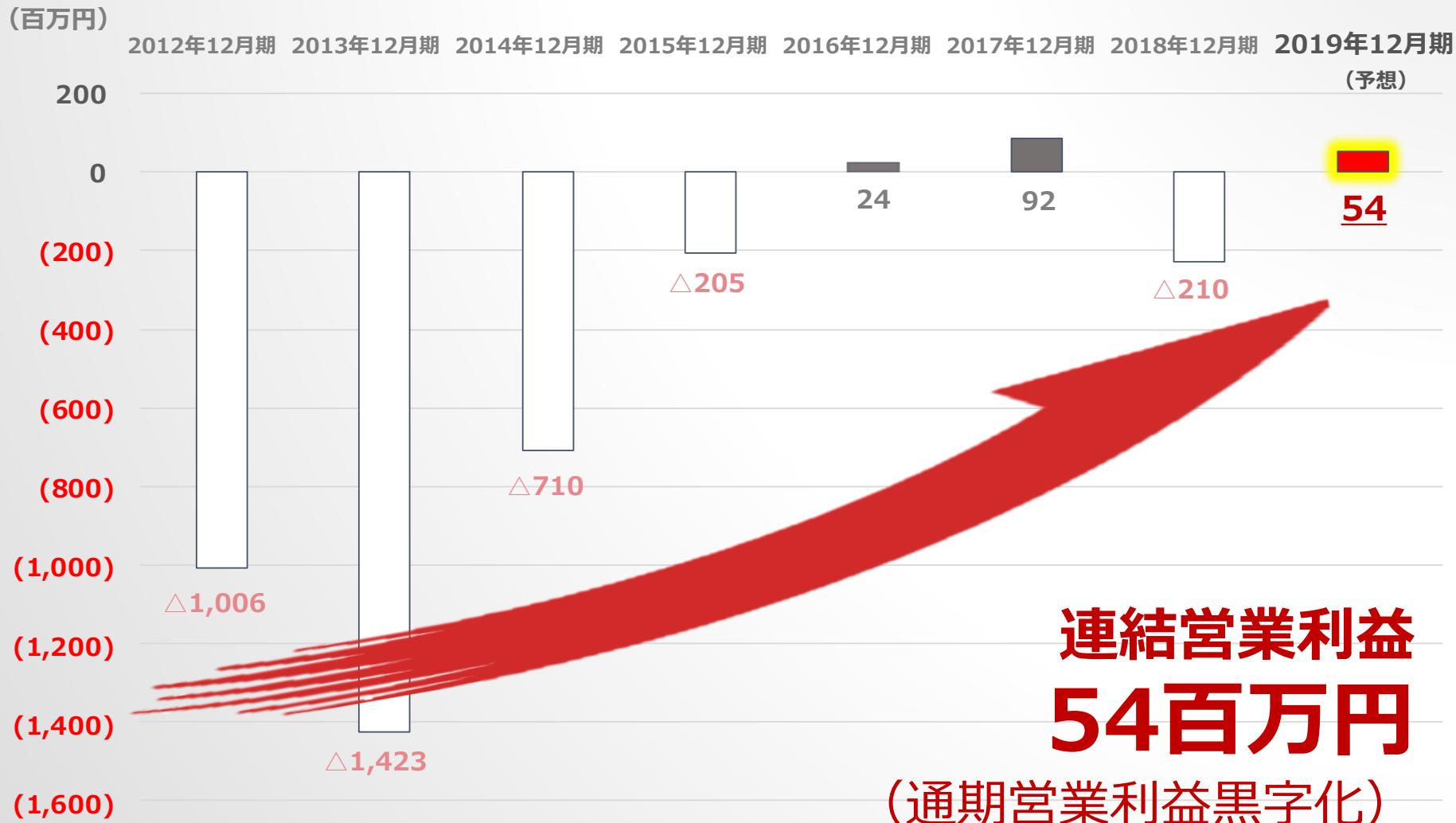
連結営業収益 **45億88百万円**

(単位: 百万円)

(前年比17.0%増)



連結営業利益 (通期予想)



フォーサイドグループ概要

会社名

株式会社フォーサイド (持株会社)



所 在 地 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号 E.T.S.室町ビル8階

設立日 2000年3月31日 (2002年10月10日 JASDAQ上場 証券コード2330)

資本金 1,264,914,136円 (発行済株式総数31,397,704株)

経営陣 代表取締役 根津 孝規 取締役会長 泉 信彦 常務取締役 飯田 潔
取締役 吉田 生喜 取締役 假屋 勝 取締役 濱田卓二郎
常勤監査役 法木 右近 監査役 田辺 一男 監査役 瀬山 剛

法律顧問 TMI総合法律事務所

事 業 ・株式等の保有を通じたグループ企業の統括及び管理等
・投資銀行業務

子会社

- ・(株)ブレイク：プライズ商品企画販売事業/イベント企画運営事業
- ・日本賃貸住宅保証機構(株)：賃貸家賃保証/不動産仲介売買/賃貸管理事業
- ・フォーサイドフィナンシャルサービス(株)：投資銀行業務/フィンテック事業/金融事業
- ・(株)モビぶっく：電子書籍配信事業/スマートフォンアプリ配信事業
- ・フォーサイドリアルエステート(株)：不動産投資事業/不動産販売・管理事業
- ・(株)マーベラスアーク：音楽関連事業
- ・フォーサイドメディア(株)：出版事業



—免責事項について—

本資料に記載されております計画や見通し、戦略などは本資料の作成時点において入手可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。

実際の業績はかかるリスク及び不確実性により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。

かかるリスク及び不確実性には、市場リスク、為替リスク、当社事業を取巻く様々なリスク、国内及び国際的な経済状況、サービスの成否、他社との競争状況などが含まれますが、これらに限定されるものではない不確実性が含まれていることをご留意ください。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社フォーサイドに属します。